

ネパール訪問報告

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン

理事長 マナンダ・ル マダ・ブ ナラエン

今年1月6日～12日までネパールへ帰国しました。正味5日間の短い滞在中、二番目の姉の喜寿の祝いを10、12日に参加して、何とか2日間ミランクラブネパール役員とのミーティングとダルマスタリ学園村を訪問することが出来ました。その報告をしたいと思います。

1月8日に、ミランクラブネパールの事務所があるカトマンズ、パカナジョールにて役員たちとミーティングを行いました。副会長マリ氏から今年ミランクラブネパール発足20周年に当り、ミランクラブジャパンからの里子訪問に、一人でも多くの会員・特別里親の方々が参加され、里子たちの成長ぶりを見てほしいと発言がありました。また学校間交流を今後とも行い文化交流や講師派遣受入れを推進していきたいと述べました。日本との情報交換に際し、役員のマノズ・シュレスタ氏（ポカラ市にある日本語学校の校長）が担当することになり、今後必要に応じ翻訳をしてくれます。サヌ・ラージカルニカール役員は職業訓練所の担当となり、これからも活発に職業訓練を行いたいと述べました。サガル会計担当役員は、現在ネパールの経済情勢に触れ、子供たちへの支援金不足を訴え、早急に増額する必要があることを説明しました。

今まで事務局長を務めてきたゴータム・サヤミ氏は1月末で辞め、後任にプルソータム・マナンダ・ル氏が引継ぐことになりました。サヤミ氏は今後ミランクラブを側面から協力してくれることになりました。

翌1月9日はダルマスタリ学校を訪問しました。学校は期末試験の最中で、この日は最終試験日でもあり、教職員18名は一生懸命に子供たちの面倒を見ているのを感じました。学校でミーティングを行い、校長から今年はミランダルマスタリ学校からS.L.C (School Leaving Certificate) 受験者11名がいて、内2人は病気欠席で必要出席日数80%に達せず、現在教務局に認めてもらえるよう対応中であり、場合によっては受験者9名になると伝えられました。



学校正面にて

S.L.C 受験に挑戦する生徒たちには頑張って合格してほしいと思います。



ミラダルマスタリ学校

ネパールの学校の評価は、S.L.C（全国統一高等学校卒業試験）にどれだけ良い結果が出せたかを基準の一つにしています。そのため校長は、今回初めてのSLC試験（毎年国内合格率は50%以下）に際し、一人でも多くの生徒が良い結果を出して合格出来るよう指導していきたいと表明しました。他の先生方からは、ミランクラブジャパンからの環境整備支援等の感謝の言葉をもらい、今後とも変わらぬご支援をお願いしたいと締め括られました。

ミラダルマスタリ学校は、皆様がご存じの通りミランクラブネパールが運営しています。ミランクラブの主旨に基づいて、一人でも多くの子供が学校へ行けるよう学費を公立学校並みに設定し、運営しています。最近ネパール政府が発表した中で、ネパールの平均月収2010年度は約25,000円で、ミラダルマスタリ学校の場合は平均8,700円程度と国の平均を下回っており、現在の給与に対する教職員の理解には感謝しています。教職員の奉仕がなければ運営は不可能と言っても過言ではありません。

学校でのミーティング終了後、遅い昼

食をミラン寄宿舍でとりました。久しぶりの手で食べるダルパート・タルカリはととも美味しかったです。寄宿舍には校長始め、スミトラ先生、ラビン先生も住んでいます。子供達の勉強を細かくスケジュールを組んでマンツーマンで面倒を見ています。この環境は、家族から離れて暮らす子供たちにとって明るい将来に繋がっていくに違いないと思いました。

私が訪れた1月はネパールでもっとも寒い時季です。当日は雨も降り大変寒く暖房設備のない寄宿舍ではダウンジャケットは脱げませんでした。この季節には気温は零度に近いこともあり子供たちはシャワーを浴びるのを嫌がり、寄宿舍内では重ね着をして着膨れて勉強に励んでいました。



マンツーマンで面倒を見るスミトラ先生

その後、職業訓練所に寄り昨年設置したパソコンを見ました。事務スタッフのラミタから現在行われている訓練がスムーズにしていること、参加者から新しいパソコンが使える喜びを聞きました。校長は11台のパソコンをもう少し増やし学校のカリキュラムに入れ、活用したいと希望を語っていました。